



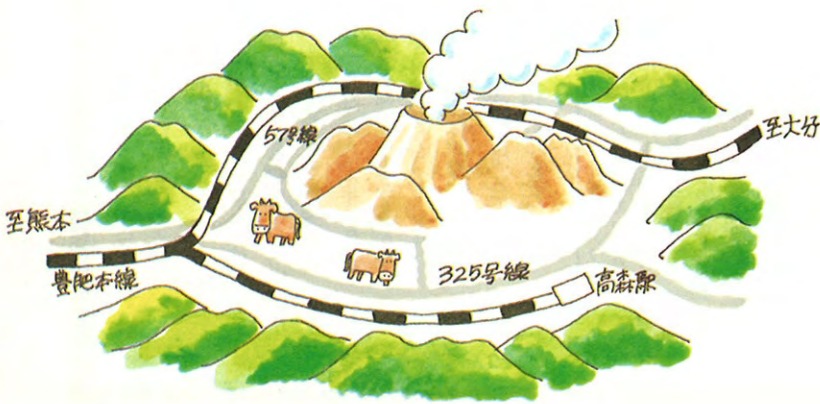
春を呼び覚ますように炎が走る。
草が呑み込まれる。

阿蘇の野焼き

三月の中旬から下旬にかけて、阿蘇郡一帯の放牧原野では、草地に残る病害虫の駆除と新しい草の発芽を促進する目的で、野焼きが行われる。

風の穏やかな日を選んで、火だち（山林と原野の境を四メートルほど刈り取った防火線）をつくり、火がつけられる。火は風を呼び、勢いを得て燃え広がる。長さ三メートルほどの杉の枝でつくった火消しにより、周囲の山林などに燃え移らないようにたたき消す。最後に火見役を置き、消火を確かめる。

また阿蘇町の杵島岳付近では、特に夜を選んで、恒例の「観光野焼き」が行われ、夜の一大イベントを繰り広げる。
今年も、春の風物詩「阿蘇の野焼き」は、カメラマニアに恰好の素材を提供してくれた。



撮影 林 恭行さん